

# アンケートまとめ

きたかん伝道フォーラム2021

2021/2/13 ON ZOOM

# アンケート集計結果の共有

- お忙しい中アンケートへのご協力を感謝致します。詳細は事前送付のエクセル表、またワードの文書をご覧ください。公に配布することは考えておりません。(アンケートの教会順は便宜的なものです)

＜このコロナ危機における教会の伝道において課題となってることは何か＞(丸山)

- 一時的な現象と言うより、新しい時代の転換点。
- 「集める・集まる」という集会中心思想⇒主イエスの福音にいか「共に与る」か(1コリ9章)  
(前提としての「コロナ」理解の必要性＝コロナは善でも悪でもなく、試練。)
- マタイ8:23-28の「嵐の中の弟子たちとイエス」の記事から思うこと。
  - この嵐の中に主は死んでいるのか？NO！主イエスは共に経験し、先導し、新たな地へ。
  - 弟子は主イエス(の思い)に導かれ、共に働く。それは、「外の」一人の人が救われるため。

# 1) 現在の教会の集会についての現状と、インターネットの活用法

- 現在も 10 の教会で対面礼拝を行なっているが、ネットでの礼拝配信(対面並行を含む)を行なっている教会が 13 あり、うち 11 がライブ(同時)配信となっている。  
内訳: ZOOM (7)、LINE (2)、YOUTUBE (4)
- 教会学校は 8 の教会が休会、ネット参加での実施が 2 ある。
- 祈禱会は 3 の教会が休会、ネット参加での実施が 6 ある。
- 市中感染の状況に応じて、対面集会でも分散したり、ネット併用したり、様々な工夫がみられる。

集会現状のまとめ

主日礼拝	対面集会あり	11	59%
	複数回に分ける	4	24%
	ネット配信あり	14	76%
	うちライブ	12	65%
	ZOOM	7	35%
ツール	LINE	2	12%
	YOUTUBE	4	24%
教会学校	休会	8	41%
	ネット参加あり	2	12%
祈禱会	休会	3	12%
	ネット参加あり	6	35%

回答数 : 18

## 2) インターネット活用で良かったこと、恵み、 また問題と感じていること。

### • 恵み

- 教会に足を運ぶことのできなかつた方々が、集会に参加できるようになった
- 国内外を問わず、遠隔地の方々も集会に出席できていること
- 新しい情報共有の場としての利点(LINEでの状況確認や、教会学校のもちかたなど)

### • 課題

- 個人差がある使いこなしの平準化
- 対面礼拝に比べて双方向コミュニケーションが取り辛い
- 賛美歌の声を合わすことができない寂しさ
- 通信環境の違いによる情報格差の解消
- 個人情報保護
- これが普通になってしまって元の集会に戻り難くなる懸念

### 3) 教会の「交わり」・「学び」について薄くなりがちだが、それについて思うこと。

- 教会の本来の交わりが如何に密なものであったかを再確認した
- 分離型礼拝においては人の固定化を防ぐ
- ネット活用から漏れてしまう方々へのフォローアップが重要
- 教会学校クラス単位でのフォローアップ
- オンラインでの集会について、もどかしさはあるが、むしろ集会参加への敷居が低くなり活性化されている面もある
- 希薄な分、神様との関係を密にする機会でもある
- お互いに祈り合う

分団での意見交換に期待します

## 4) 表へ出て行きにくい状況の中で、伝道面での工夫や 今後取り組みたいと思っていること

- 教会のWEBサイト(ホームページ)やSNSのチャンネルを充実させ発信力を高める。
  - ホームページの充実と言及された教会が 6 ありました。
- 求道者、家族伝道への注力
- いままで通り、またそれ以上に、教会は地域に対して開かれた存在でありたい
- 居場所としての教会を考える

分団での意見交換に期待します

## 5) 新たな計画や、現在の教会の課題について分ち合えること

- コロナ危機を通して、教会員が献身的に奉仕し、心を一つにして祈り、励まし合っていることがよくわかる。
- 今年(2021年)開拓50周年を迎えるので、50周年誌や50周年記念感謝礼拝を企画している。
- 感染することが教会のなかでないようにしていくなかで、接すること祈り合うことができない状況でいかに支え合っていくか模索している。
- 2021年度の計画の準備の時期ですので、教会員の祈りと幻を結集して立案したいと思います。特に、新型コロナ危機の中にあって教会のあるべき姿や福音宣教の展開を話し合いたいと願います。
- 今年度の献金減少は、支出の減少と、連盟の緊急支援もあり、予算比10%にとどまる予定。
- ・礼拝出席が難しく、しかも献金が難しいと考える高齢者の方々へのフォローが必要。
- とにかくクラスター発生源にならないように留意。
- 一人一人への細やかな対応がしにくい。
- 従来と同じ事ができない事を積極的にとらえた発想をしていきたい。
- 主任牧師招聘に向けて、これまでの教会の歩みと課題の振り返りの作業を行う。教会員と共有しつつ、今後の方向性を考えていく。

## 5) 新たな計画や、現在の教会の課題について分ち合えること

- かなり感染予防に力をいれているので教会がクラスターになるリスクは少ないと思うが、教会員が濃厚接触者または感染者になる可能性はある。そうなるとその方々は保健所また医療機関の指導の下に置かれると思うが、その方々の人権の保護が課題となる。また、牧師または牧師家族が濃厚接触者また感染者になった場合の対応が課題。
- 1年にもなろうとしている、コロナ危機下での制限は、やはり目に見えないが、閉塞感やストレスが溜まっていると思うので、それらを、少しでも緩和するアイデアがあれば、参考にさせて欲しい。
- コロナの状況は、今年もしばらく続くと思います。しかし、これまでの経験を踏まえて、「できる」ことと、「控える(待つ)」ことが、分かってきたように思います。教会の皆さんと「できる」ことを積極的に見つけて、少しずつ取り組んでいければと思います。当教会では、10月に信徒会を(日曜日午後のプログラム)、11月に世界祈禱週間を覚えてのミニバザーを行いました。感染防止に気を配りながら、しかし皆さんと協力して、楽しい交わりの時間を持つことができました。
- 孤立感を持ってうつむいてしまわない様に、御言葉をお伝えし続ける。
- コロナ後への祈り、献金が席上献金以外減らなかった姿勢に感謝
- 最近、教会において安全に食事ができる環境づくりをした。教会の午後の活動、特に、安心して対話や懇談のできる場を作っていきたいと考えている。会堂の修繕計画と、その土台となる今後の中長期計画のためにも、教会員をはじめ、多くの方たちと対話・懇談の機会を重ねていきたい。必要だと思う。しかし教会員が置いてきぼりになったような思いを抱かないように配慮していく必要があるだろう。

## 5) 新たな計画や、現在の教会の課題について分ち合えること

- コロナ禍において、ますます「教会に来ること」が難しくなっているなかで、共に奉仕を担い合うことの難しさを感じている。奉仕者の減少、執事など教会の中心的な働きを担える人がいないこと...そのようななかでも、一人ひとりが大切にされ、共に立てあげられていく教会とはどのような教会か、皆さんと考えたいと思っている。
- 長年の懸案であった教会墓地建立が、なぜか急に実現にむけてとんとん拍子で進み始め、4月には完成予定。
- 諸活動は自粛せざるを得ないが、それぞれが主との関係を深める時期としてこの時期を過ごしていければと思っている。次年度の合同分級の内容をこれから検討していきたい。
- この時期の教会の課題 県内でも感染者が急増している中で、消毒、検温、換気、3密とならないことを徹底しながら礼拝を行っている。教会がクラスター発生源とならないように配慮。
- 教会の感染症対策については、2009年からの蓄積に加えて、今回の感染症に応じてバージョンアップしたものとなっている。現時点の対策は、緊急事態宣言の社会状況に対応できており、教会内で感染連鎖を起こさないことを目標にしています。信徒や来会者に教会の方針を押し付けることがないように、個々人の考え方に合わせるように調整はしています。
- 市内の状況を考慮すれば、教会関係で感染者が出ることは避けられない段階にあります。そこで、感染者とご家族へ教会として対応する旨の案内を始めました。
- 感染者の情報管理についても、厳しいレベルに設定する旨の案内を始めました。

## 5) 新たな計画や、現在の教会の課題について分ち合えること

- 当年度の最大の課題は幼稚園(現状認可外保育施設)の認可保育所衣替えです。現在設立母体(社会福祉法人)設立事務(審査は通過)、保育所人事の検討、教育館建替(現牧師館は無くなります)、資金計画(回転資金申請・金融機関申請・行政補助金申請)、これら一切の総会承認手続きのため平常年度以上に猛烈に忙しくなりました。
- リモート活用による教会での取り組みは、今後の社会のありようとなるもので、無視は出きないと思われる。
- トラクト配布などから、ITを活用した伝道方法、ホームページの充実・発信がより求められるものとなり、その強化が必要。人と専門分野の理解等々、教会員だけで賄えられるか？が一つの課題。また、どこまでも教会員、牧会者の個人情報を出せるのかも難しい判断となる。...が、変わらなければならないことは必須と考える。
- どんどん変化していくことが出てくるので柔軟性が必要だと思う。しかし教会員が置いてきぼりになったような思いを抱かないように配慮していく必要があるだろう。

非常に多岐にわたりますので、分団で分かち合いましょう。

## 6) コロナウィルス感染の危機的状況の中で、北関東地方連合諸教会がどのように連帯し、宣教協力を進めることができるか

- オンラインの利点を生かし、遠隔地であっても相互に、学びや情報共有の機会が増やせる。
  - 連合の外に対しても
- ZOOMのアカウントを有効活用する
  - 合同集会
  - 頻繁な情報交換
  - 教会単位だけでなく、各会や委員会、教会学校など、多岐にわたる単位で
- ビデオモニタの提供に感謝



これまで遠隔のために出来難かったことが出来るようになる

## 7) この危機の中にあって、具体的な聖書箇所、或いはメッセージで、心に留めているような聖句やメッセージ` (1)

- 主題聖句:「主に望みをおく人は新たな力を得 鷲のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れない。」 イザヤ 40:31
- 「希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。」ローマ 12:12
- 「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。」 II テモテ 4:2
- 主題聖句:「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」 I テサロニケ 5:16~18
- 「恐れるな、わたしはあなたと共にいる。わたしは東からあなたの子孫を連れ帰り、西からあなたを集める。」 イザヤ 43:4~6 特に5節
- 「彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。」 使徒 2:42

## 7) この危機の中にあって、具体的な聖書箇所、或いはメッセージで、心に留めているような聖句やメッセージ` (2)

- 主題聖句:「希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるように。」ローマ 15:13
- 主題聖句:「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」ヨハネ 13:34B
- 年度聖句:「あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です」 I コリント 12:27
- 主題聖句:「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。」エレミヤ 29:11

## 7) この危機の中にあって、具体的な聖書箇所、或いはメッセージで、心に留めているような聖句やメッセージ` (2)

- 「ある人たちがいつもしているように、集会をやめることはしないで互いに励まし、かの日が近づいているのを見て、ますます、そうしようではないか。」 ヘブル 10:25(口語訳)
- 「わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている」 ヨハネ 15:4
- 「なぜ怖がるのか。信仰の薄い者たちよ」 マタイ 8 :26
- 年間聖句 「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなたがたに求めておられることである。」 I テサロニケ5:16~18

以上